

キャリア支援

女性のためのキャリア教育と就職支援： 新たにキャリア支援センターが始動

キャリア支援部長
天童 睦子

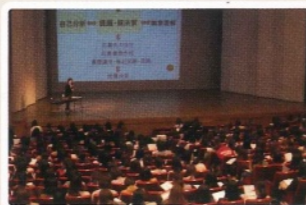
本学では2016年4月、キャリア支援センターが設置され、これまでの学生サポート、就職支援を生かした、キャリア支援体制が始動しています。就業的キャリア支援とともに、女性の生き方、働き方を総合的に考える女子大学ならではのキャリア教育の充実も、一層進むことが期待されています。

学生は1年から4年まで、キャリアデザイン科目などを通して主体的に自らの人生や働き方を知る機会を得ています。また近年、就職活動の日程などに変化がありますが、学生たちはキャリアガイダンスやセミナーに積極的に参加して、情報収集にあたっています。さらに、将来のロールモデルとして、社会で活躍する女性をゲストに迎えたキャリア・アップ・セミナーも

教育の一部となっています。学科ごとの就職セミナーや就職講座も充実し、これらは後援会のお力添えによるものです。それらの成果は、他大学と比べても遜色のない、高い就職率となって表れています。

本学では毎年秋に「保護者向けの就職支援セミナー」を行っております。いまどき就職活動事情、企業が求める学生像、親の言動で留意すべきことなど、就活の実情を知る機会としても好評です。

これからも大学のキャリア(就職)支援に携わる教職員一同、協働して学生の将来を見据えたサポートに取り組んでまいります。引き続き後援会、保護者の皆様のご支援とご理解を賜れば幸いです。



第1回キャリアアップセミナー
(2017.5.8)



2017企業研究会
(2017.3.9~10)



宮城学院女子大学後援会会報

MIYAGI GAKUIN SUPPOTERS REPORT

vol.4



保護者の皆さまへ

後援会会長
三井 精一

会員の皆さま、こんにちは。宮城学院女子大学後援会会報発行にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

保護者の皆さまには、常日頃から本後援会の活動に、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本後援会は保護者の皆さまからご協力頂きました貴重な財源を元に学生と学校に対して、種々の助成を行っています。主なものとして学生の課外活動や大学祭への支援、そして教育研究活動や奨学基金への助成等であり、更に保護者の皆さまとの連絡を密にすると共に、就職をキーワードに保護者の皆さま向けに種々の情報を提供する場を設けております。

さて、本後援会活動ですが、4月4日の新入学生の入会式に始まり、5月27日には総会を実施して、事業計画等をご承認頂きました。今日まで計画どおりに、ほぼ順調に活動を継続しております。

主に実施した項目は

1. 総会時の音楽科によるミニコンサートと就職活動のための報告会であります。

午前中には厳かな雰囲気醸し出されている礼拝堂にて、パイプオルガンのソロや声楽のソロ等の演奏がありその素晴らしさに多くの会員の皆さまから感動したとの声をお寄せ頂きました。

また、午後からは、例年の講演会に変えて地区後援会で好評を得ています、ジュニアアドバイザーからの就職体験報告を主に実施致しました。保護者の皆さまからは「参考になった」「勉強になった」との声を多数頂きました。今年も就職に関しては学生優位の市場ではありますが、採用

する側に居たものとして感じているのは、就職活動で大事なことの一つに保護者と学生が一体となって取り組むことがあげられます。

学生の活動に理解を示すと共に、人生の経験者として良きアドバイスを送って下さい。

総会でお寄せ頂いた多くのご意見を次年度以降の活動に生かして行く所存です。

2. 次に地区後援会の開催であります。

地区後援会は総会へのご出席が困難な県外にお住まいの保護者の皆さまと、地元において懇談を交えながら、連携を保つことを目的としており、活動計画の重要な項目の一つであります。

毎年宮城県を除く東北地区5県で開催しています。

実施項目は

- ①後援会の活動報告と大学の近況、就職状況の報告
- ②学生による就職活動体験談
- ③学業・学生生活・就職などの個別相談会

等です。親元から離れている学生をお持ちの保護者の皆さまの不安感を和らげるよい機会になったと自負しております。

また、「学長先生を始めとする先生方のお話しや、先輩方のお話しを聞くことが出来て勉強になった。そして学生さんの生の声を聞いたことは貴重な体験でした。」等々とても良かったとの意見が多数ありました。私達後援会役員も、地区理事の方々の協力を得て、全地区を訪問し、最後まで保護者の皆さまと会話が出来、有意義な時間を過ごすことが出来ました。今年出席できなかった保護者の皆さまには、次年度から、ぜひご出席頂きますようお願い申し上げます。

後援会役員も、会の運営に頑張っていますが、学長先生をはじめとする教職員の皆さま、特に教育研究支援グループの皆さまの熱心な力強いご支援、ご指導に心から感謝と御礼を申し上げます。次第です。

結びに、保護者の皆さまのご健勝をご祈念申し上げ挨拶と致します。



宮城学院のルーツは宗教改革にあり

学長・後援会顧問
平川 新

2017年は宗教改革500年の年でした。ドイツのマルティン・ルターが教会の改革を求める声をあげたことを契機に、宗教改革の機運が盛り上がったとされています。教会への質問書は95箇条ありましたが、そのなかで最も知られているのは教会が免罪符を売っていることを批判したことでした。

免罪符とは、罪を許す証明書のことです。罪の許しをお金であがなうということに対して、ルターは教会の墮落だと批判したのでした。多くの人たちが同じように考えていましたので、教会批判の声が燎原の火のごとく燃えさかりました。教会の権威と権力を批判し、聖書の教えにもとづいて信仰を守るという動き、つまりプロテスタントという新しいキリスト教の動きを生み出していったのです。

プロテスタントとは抗議する人という意味からきていますが、まさに旧来のカトリック教会のあり方に抗議する新しい宗派としてプロテスタントが生まれたのでした。私たちの宮城学院は、そのプロテスタントの流れをくむ合衆国改革派教会が日本に派遣した宣教師たちによって、1896年(明治19年)に建学されました。

歴史に「もし」という問いかけをすると、さまざまなことが思い浮かびます。「もし」ルターによる教会批判がなければ、プロテスタントは生まれていなかったかもしれません。改革があったとしても別な形になっていた可能性があります。そうしますと、宮城学院を創設するために宣教師を派遣した合衆国改革派教会のミッション・ボードも生まれていなかったでしょう。ということは、この宮城学院も生まれていなかったということです。「もし」宮城学院なかりしば、ということを考えて、誠に不思議な気持ちになります。

500年前から始まった宗教改革は、キリスト教のあり方だけではなく、世界の歴史を大きく変えていきました。それは誰もがわかることですが、昨年、宗教改革500年を迎えて歴史を顧みるときに、じつは私たちの生き方にまで大きな影響を与えていることに改めて気づかされました。そうした意味で、宮城学院は500年前の宗教改革の賜物だということができると思います。

Campus Report

「大学祭が開催されました」

10月14日・15日の両日、大学祭が開催されました。今年のテーマは「tutti～共に奏でるハーモニー～」。「tutti(トゥッティ)」とは音楽用語で「全員で」や「一緒に」と言う意味で、「ご来場いただいたすべての皆さまと一緒に大学祭を創りあげたい」という願いが込められています。両日ともに保護者の方をはじめ、地域の方々など沢山の皆さまにご来場いただきました。大学祭には、後援会から助成金のご支援をいただいております。今年度も盛大に開催することができました。この場を借りて御礼申し上げます。



宮城学院女子大学後援会事務局 (大学事務部教育研究支援グループ庶務担当内)

〒981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1
TEL 022-279-4698 FAX 022-279-7566 E-mail syomu@mgu.ac.jp

2017年度後援会総会が開催されました

5月27日(土)、2017年度大学後援会総会が宮城学院女子大学のキャンパスで開催され、当日は約300人の保護者の方々にご参加いただきました。

午前中に開催された音楽科によるミニコンサートでは、本学音楽科卒業生のオルガニスト飯塚由美氏によるオルガン独奏、日下朋美さん(音楽科3年生)によるヴァイオリン演奏、中田美賀喜さん(音楽科4年生)のフルート演奏が披露されました。

午後からは総会が行われ、三井精一会長の議事進行で、2016年度事業報告および収支決算報告、会計監査報告、2017年度事業計画および収支予算、役員を選任について提案がなされ、すべての議事について審議し、承認が得られました。

総会終了後は、学生部長による学生生活に関する活動報告、キャリア支援部長によるキャリア支援および就職状況報告を行いました。

また、今年度初めての企画として、地区後援会で好評をいただいております在学生による就職体験報告会を行いました。どのように就職活動に取り組んだか等をインタビュー形式で行い、保護者の皆様には今後の参考にしていただけたのではないのでしょうか。

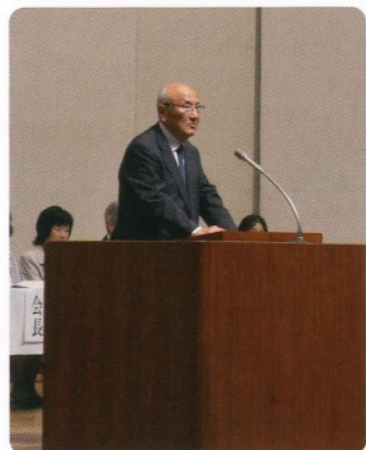
その後は、各学科に分かれて、学業成績や学生生活などについて、学科教員とのクラス懇談会が行われました。本学が日ごろから行っている教育・研究活動等の様子などをご説明することにより、保護者の方にご安心いただけたら、幸いです。このほかにも、就職個別相談会や、学生によるキャンパスツアーにも多数の方にご参加いただき、本学としても充実した一日となりました。



ミニコンサート



音楽科によるミニコンサート



三井会長による議事進行



学長挨拶



学生部長による学生生活に関する活動報告



キャリア支援部長による就職状況報告



学科別クラス懇談



就職個別相談



食品栄養学科(平本ゼミ)の学生がプロデュースしたお弁当を昼食としてご用意しました。メニューは、旬の県産食材等をふんだんに使用した「たご飯、豚肉のトマト生姜焼き、だし巻き卵、キャロットラペ、菜の花のごま和え、桜えびとキャベツの炒めもの」でした。

地区後援会



2017年度も宮城学院女子大学地区後援会を東北地区の5会場(8/26福島市、8/27山形市、9/2盛岡市、9/3青森市、9/10秋田市)で開催いたしました。

地区後援会は二部構成となっており、まず第一部では、本会役員から大学後援会の活動報告、本学教員から「宮城学院女子大学の今」と題した大学の近況報告、就職担当者からの就職(キャリア)支援や就職状況の説明を行いました。その後は、各地区出身のジュニアアドバイザー(内定を獲

得した4年生)の各自の就職活動等の体験談発表をインタビュー形式で行いました。例年、就職活動については保護者の方々の関心も高く、熱心に学生の体験談に耳を傾けていただきました。

第二部では、就職・教務・学生生活の各担当職員との「個別相談会」が行われました。たくさんの方にご参加いただき、「日ごろ離れて暮らしている不安が解消された。」というご意見もいただいております。

青森地区



岩手地区



福島地区



秋田地区



山形地区



来年度も地区後援会を開催する予定ですので、たくさんの方にご参加いただけますよう、お願いいたします。